

事業名

ぬかた、木望^{きぼう}の森
～新たな森林整備にむけて～

申請金額

19,330 千円

事業目的

岡崎市額田地域では、明治期に植林の推進が図られ、林業先進地となる礎が築かれた。林業グループの活動も盛んで、昭和 50 年から始まる額田林業クラブは枝打ち材を中心とした付加価値材生産に取り組み、全国表彰を受けるなど、自伐林家の意識も高い地域であった。しかし、材価の低迷、後継者不足等で山林所有者の山離れが進み、また、急傾斜地が多い事から、森林整備が遅れ森林の荒廃が進んでいる。

当事業では、架線集材を導入することにより、森林整備の遅れている地域の施業に取り組みとともに、ICT 技術の導入により、当組合が、かつての林業グループに代わって、今後の森林資源を一元的に管理し適切な森林管理を行っていくための体制整備を行い、山林所有者の関心を取り戻す機会とすることを目的とする。

事業内容

事業対象区域は、東河原地区【2167 林班】森林経営計画、及び、東河原地区【2168 林班】を合わせた 68ha（人工林率 88%（ヒノキ 54%、スギ 30%、マツ 4%））とする。同地域は、岡崎森林組合の前身である、大正 10 年に 75 名の組合員により河原土工森林組合が組織された地域であり、かつては林業地であった。

しかし林業の低迷により 8 齢級以上の利用間伐が可能な施業地が急傾斜地によって森林整備が遅れ森林の荒廃が進んでいる。また、当地域は、大規模な雇用を吸収する豊田市に近いこと等から労働力確保が極めて難しく、人力による森林資源調査等は極めて困難となっている。このため、先人が残した森林資源を適正に管理し整備していくのは、ICT 技術等を導入しスマート林業を目指す当組合以外にはない状況となっている。

今回の事業では、宮崎財産区（岡崎市宮崎地区 9 町内会 1,137 人からなり、区域の住民から委員を選任し運営）と民有地（所有者 2 名）を対象に、以下の事業を実施する。

【ソフト事業】

- ・ UAV 空中写真、GNSS 測量等を活用した森林調査（森林及び地形情報の取得）を行い、急傾斜地における効率的な搬出方法、及び作業道の路線設定を検討。
- ・ 山林所有者、地域住民座談会の開催（UAV 空中写真、GNSS 測量の活用により、山林所有者等に対し現地のより詳細な情報を提供して理解を深める）
- ・ ICT 技術を活用した森林調査、架線を導入した作業システムによる集約化・搬出間伐にかかる生産性・コスト分析。これら検討を行うための検討委員会の開催。

【ハード事業】

- ・ 急傾斜、土砂崩壊等の危険性を考慮し、作業道開設については、尾根付近の既設作業道を 1500m 延長するとともに、既存林道を活用した搬出、及び、効率的な作業等の観点から、既設林道と作業道を結ぶ新たな作業道 500m を開設。作業道は 3t ダンプが通行できるものとする。
- ・ 財産区有林 7ha、民有林 13ha で利用間伐を行う。集材方法はスイングヤードを用いた集材距離 50m 程度による簡易架線集材。集材距離が長い箇所、直接、既設林道まで集材できる箇所は、ラジキヤリーによる架線集材を行う。架線集材技術を山林所有者及び現場職員に再認識してもらうため現地講習会等開催する。搬出は 3t ダンプを用いて 10t トラックが積み込みできる既設林道まで搬出を行う。
- ・ 「木口調査アプリ」により、搬出材の自動計測・台帳整備・伝票作成の省力化を図る。
- ・ A・B・C 材の有利販売。これら、事業実施によるコスト・効果等検証・分析。

事業計画図

申請者: 岡崎森林組合

事業名: ぬかた木望の森 ~新たな森林整備にむけて~

作業道開設
L=2000m, W=3.5m

宮崎財産区
搬出間伐7ha

所有者A
搬出間伐13ha

所有者B

66

河原

2168

2167

2174

凡例 (縮尺1/5000)

	対象地区 (68ha)
	搬出間伐 (20ha)
	作業道開設 (2000m)
	既設道
	既設作業道



